

問1 平安時代の歴史的特色をまとめた解説において、当時の文化が「国風化」していった背景や特徴を説明したものとして、最も適切な記述はどれですか。（2019年 富山県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---------------------------------------|---|
| 1. 遣唐使の停止などにより、大陸の文化を日本の生活や好みに合わせて消化・吸収した。 | 2. 武士が政治の実権を握ったことで、質実剛健で力強い文化が好まれるようになった。 | 3. キリスト教の伝来に伴い、西洋の学問や芸術が日本の伝統文化と融合した。 | 4. 朝廷の権力が衰退し、地方の農民や町人の力によって素朴な文化が形成された。 |
|--|---|---------------------------------------|---|

問2 平安時代中期、藤原道長が娘の彰子に仕えさせた女性の一人で、当時の宮廷社会の様子や貴族の恋愛を主題とした、世界最古とも言われる長編の物語文学を執筆した人物として正しいものを選びなさい。（2021年 神奈川県公立入試 類似）

- | | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 1. 紫式部 | 2. 清少納言 | 3. 和泉式部 | 4. 小野小町 |
|--------|---------|---------|---------|

問3 平安時代中期の地方統治において、国司が農民から税を徴収し、朝廷へ納める仕組みにおける「国司の利益」について正しく述べているものはどれですか。（2023年 石川県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 朝廷に納めるべき一定の税を差し引いた、納めた残りの分を、国司自身の利益とすることが認められていた。 | 2. 国司には朝廷から一定の給与が支払われるのみであり、徴収した税から私的な利益を得ることは固く禁じられていた。 | 3. 農民が国司へ納める税はすべて国司の私有財産となり、朝廷へは土地の面積に応じた一定の地代のみを納める仕組みであった。 | 4. 国司は徴税権を持つ代わりに、朝廷に対して自らの私有地をすべて献上しなければならないという決まりがあった。 |
|--|--|--|---|

問4 藤原道長が活躍した平安時代中期には、社会不安を背景に「念仏を唱えて阿弥陀如来にすがり、死後に極楽浄土へ生まれ変わる」という考え方が貴族から民衆にまで広まりました。この信仰を何といいますか。（2024年 大阪公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|-------|---------|---------|
| 1. 浄土信仰 | 2. 禅宗 | 3. 法華信仰 | 4. 本地垂迹 |
|---------|-------|---------|---------|

問5 平安時代の歴史を整理した年表において、9世紀から11世紀頃の文化の特色を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 遣唐使の派遣が途絶えたことで、日本の風土や生活に合った、かな文字などを用いる独自の文化が貴族の間で発達した。 | 2. 聖武天皇が仏教の力で国を守ろうとしたため、唐の鑑真らが伝えた大陸の影響が強い国際的な仏教文化が栄えた。 | 3. 武士が政治の実権を握ったことで、禅宗の影響を受けた簡素で力強い文化が、寺院や武家屋敷を中心に広まった。 | 4. 商品経済の発展により、江戸の町人を中心として、浮世絵や歌舞伎などの庶民的で活気ある文化が流行した。 |
|---|--|--|--|

問6 平清盛が推進した日宋貿易に関連して、当時の社会情勢や背景について説明した文として、最も適切なものはどれか。（2024年 徳島公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 平氏が武士として初めて政治の実権を握り、一族で官職を独占するとともに、貿易の利益によって経済的基盤を固めようとした。 | 2. 足利義満が倭寇を区別するために勘合符を用い、明との正式な外交関係を樹立して貿易の利益を独占した。 | 3. キリスト教の布教を伴う貿易を許可し、ヨーロッパから鉄砲や火薬などの最新兵器やキリスト教文化を取り入れた。 | 4. 江戸幕府が貿易を制限するために朱印状を発行し、東南アジア諸国に日本船を派遣して銀や米の取引を行った。 |
|---|---|---|---|

問7 平安時代に藤原氏が行った「摂関政治」と呼ばれる政治体制の仕組みについて、最も適切に説明しているものはどれか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子が天皇になった際に、母方の親戚（外戚）として政治の実権を握った。 | 2. 優れた武士団を組織して他の有力貴族を武力で排除し、軍事的な優位性を背景にして政治の重要ポストを独占した。 | 3. 仏教の教えを政治の根本に据え、大規模な寺院を建立して人心を掌握することで、天皇に代わって国政を担った。 | 4. 地方の有力な農民に土地の私有を認め、その見返りとして徴収した多額の税を背景に、経済力で天皇を圧倒した。 |
|--|---|--|--|

問8 平安時代中期、藤原氏は自分の娘を天皇のきさき（妃）とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の母方の親戚（外戚）として朝廷の権力を独占しました。このような政治形態を何と呼びますか。（2017年 埼玉県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| 1. 摂関政治 | 2. 院政 | 3. 執権政治 | 4. 親政 |
|---------|-------|---------|-------|